

「地域生活の視点で学ぶ重度障がい者の暮らし」
カリキュラム化プロジェクト-事務局運営マニュアル-



SAKAI WO KOETE

境を越えて

プロジェクト実施の背景と目的

現状の課題

- 地域生活の主軸となる介護（重度訪問介護）の専門性が他職種に正しく理解されていない
- 介護と医療の連携構築は、障がいの重症度が増すごとに稀薄になってしまう傾向にある
- 当事者は、自分らしく地域で暮らし続けることが難しくなっている

プロジェクトの目的

- 在宅医療・福祉の充実に貢献できる人材の土台形成
- 人材育成のために、重度障がい者の地域生活の視点から学ぶカリキュラムの導入

カリキュラム構成

- 企画当初は5日間の集中講座(合計30時間)だったが、直近は3日間開催としている
- 対象：保健・医療・福祉・教育の専門職を目指す学生を主な対象としている
- 方法：対面での講義に加えて大学の環境に合わせてオンラインでの実施。見学体験実習は受け入れ当事者の自宅や勤務先、外出先で行っている。

学習目的と目標

学習目的

1. 地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢を知る
2. 地域で暮らすこと、それを支えることを自分ごととして考えることができる

学習目標

1. 地域で暮らしている当事者の生き方の多様性に触れる
2. 地域生活に様々な社会制度が関連していることを知る
3. 地域で暮らしている当事者の生活にかかわる職種や、そのあり方を知る
4. 多職種連携の中で、自分の専門性をどのように生かしたらよいか主体的に考え、言語化することができる
5. 生活を支えている介助者の役割や専門性について知る
6. 障害をとらえる多様な視点を知り、障害とは何かを改めて考えることができる

基本的なカリキュラム構成



1日目：地域で暮らすということ

- ・ 当事者による講義
- ・ 生きる、支える、地域生活の視点
- ・ 様々な立場からの実践的な洞察



2日目：介助者と医療専門職の視点

- ・ 介助と医療のアプローチの視点
- ・ コミュニケーション支援



3-4日目：見学体験実習

- ・ 6時間の現地訪問
- ・ 当事者との直接的な交流
- ・ 実践的な課題とミッション



5日目：障がいについて考える

- ・ 経験の共有
- ・ 障害の社会モデルに関する講義
- ・ 障がいに対する個人的な視点の振り返り



帝京平成大学中野キャンパス（2024.8.8）

実施成果 (2021-2024)

参加機関(五十音順)

- 千葉医療福祉専門学校(理学療法学科)
- 弘前大学(医学部保健学科)
- 京都府立医科大学(医学部看護学科)
- 杏林大学(医学部医学科)
- 日本医療大学(リハビリテーション学科)
- 大阪人間科学大学(理学療法学科)
- 帝京平成大学(看護学科)
- 東北文化学園大学(リハビリテーション学科、看護学科)
- 山口県立大学(看護学科)
- 東京大学(教育学部)
- 横浜リハビリテーション専門学校(理学療法・作業療法専攻)

主な成果

- 新規科目開講(東北文化学園大学、東京大学)、既存科目への導入(千葉医療福祉専門学校、京都府立医科大学、杏林大学、日本医療大学、大阪人間科学大学、山口県立大学)
- 参加した学生が学生介助アルバイトやボランティアを開始

参加学生の意識変容

受講前は障がいを以下のように捉えていた:

- 哀れな状況
- ケアが必要なこと
- 病気に関連するもの

受講後は障がいを以下のように理解:

- 環境と視点に依存するもの
- 社会的理解を通じて対処できるもの

満足度

学生アンケート

- 満足度: 94-100%
- 当事者の実生活の視点を学び、直接の交流を高く評価

受け入れ当事者のフィードバック

- 学習機会提供に前向き
- 継続的な協力に興味

学生受け入れプロジェクト実施計画

学生受け入れに関する準備と実施のためのタスクリストです。各フェーズの主要な作業内容と注意事項を時系列で説明します。

1 事前準備フェーズ（プロジェクト開始6ヶ月前～4ヶ月前）

初期調整、保険確認、詳細確認を実施

- 大学との初期調整
- 行事保険の確認（追加保険不要）
- 開催日時、費用、期間の詳細確認

注意事項:

- 大学教員と連携し、学生のニーズを把握
- 保険内容の詳細確認

2 プロジェクト準備（プロジェクト開始5ヶ月前）

2 プロジェクト準備（プロジェクト開始5ヶ月前）

時間割作成、役割分担、連絡先リスト作成、キックオフミーティング調整

- 時間割の作成（大学事情に合わせる）
- 講師・ファシリテーター役割分担
- 講師用連絡先リスト作成
- キックオフミーティング調整
- ボランティア保険加入（必要な場合）

資料共有フォルダ準備

- 昼食注文手配
- 配送物準備

注意事項:

- 大学側のニーズを把握
- 配送物のチェックリスト作成

キックオフミーティング参加、学生状況把握、担当時間・内容確認

- キックオフミーティング参加
- 学生の状況（興味、特徴）把握
- 担当時間と内容の確認
- 大学および学生情報の共有

注意事項:

- 学生の背景を理解し、講義資料を調整
- 教育内容と方法の統一性確保

3 講師・ファシリテーター準備（プロジェクト開始4ヶ月前）

4 詳細計画フェーズ（プロジェクト開始2ヶ月前～1ヶ月前）

4 詳細計画フェーズ（プロジェクト開始2ヶ月前～1ヶ月前）

受け入れ体制具体化、最終調整

- 学生名簿作成
- マッチング表作成
- 学生フェイスシート作成依頼
- 日程、時間、昼食の最終確認
- 未解決事項の確認
- 正式な依頼文書作成
- 学生情報の最終確認
- 提出物の確認
- 講師との方向性最終確認

5 実施直前準備（プロジェクト開始2週間前）

スケジュール共有、緊急連絡先確認、巡回者調整、資料共有

- 全体スケジュールとZoom情報の共有
- 個人別緊急連絡先の確認
- 巡回者の最終調整
- 講義資料の共有
- 会場情報、集合時間の最終確認

6 当日準備

カメラ準備、配布資料確認、弁当・飲み物準備

- カメラ、備品準備
- 配布資料の確認（大学側へ印刷依頼）
- 弁当と飲み物の準備

7 事後対応（プロジェクト終了1週間以内～終了後1ヶ月）

お礼メール送付、アンケート実施、写真共有、会員勧誘、活動紹介

- 参加者へのお礼メール送付
- アンケートの実施
- 写真の共有
- パートナー会員への勧誘
- Note、Instagramでの活動紹介

注意事項:

- 個人情報保護の遵守(広報における写真の利用に置いては説明と同意書の署名を必須とする)
- マッチング時は学生の特性を考慮
- SNSでの活動紹介はプロジェクトの意義を中心にまとめる

本計画は、学生受け入れプロジェクトの円滑な実施と、有意義な体験の提供を目的としています。各段階で柔軟性を保ち、安全かつ効果的な運営を心がけます。

よくある質問 (Q&A)

Q1. NPO法人「境を越えて」の役割は何ですか？

A. 当団体は、このカリキュラムプロジェクトの中心的な推進役として、以下の役割を担っています：

- カリキュラムの開発と設計
- 障害当事者と参加大学・専門学校との連携構築(実施内容説明、各開催地域に合わせた内容の改善)
- 見学体験実習における当事者と学生のマッチングサポート 依頼状・同意書取り交わし
- 開催地域での講師の育成
- プロジェクト全体の企画・運営・評価

Q2. プロジェクトの活動資金はどのように捻出していますか？

A. 主に以下の方法で活動資金を確保しています：

- 助成金：日本財団「重度障がい者（難病患者含む）へのケアの体系化と専門教育課程への導入」事業
- 各大学・専門学校による（座学講義会場提供、講師・実習謝礼金等一部費用負担）
- 現在も継続的な資金調達に取り組んでいます

Q3. 授業や振り返りの講師は誰ですか？

A. 多様な背景を持つ講師陣で構成されています：

- 当事者（地域で暮らす重度障がい者）
- 在宅医療に関わる医療専門職
- 介助者
- 学生介助経験のある医療者

講師構成の特徴:

- 当事者の視点を重視
- 多職種からの多角的なアプローチ
- 実践的な経験に基づく学び

なお、当団体では各開催地域における安定的な開催を目的に、各開催地域で講師を育成しています。新講師による講義の質の担保を図るため、教則本を作成し、中心メンバーからのフィードバックを受けられる練習会を開催しています。